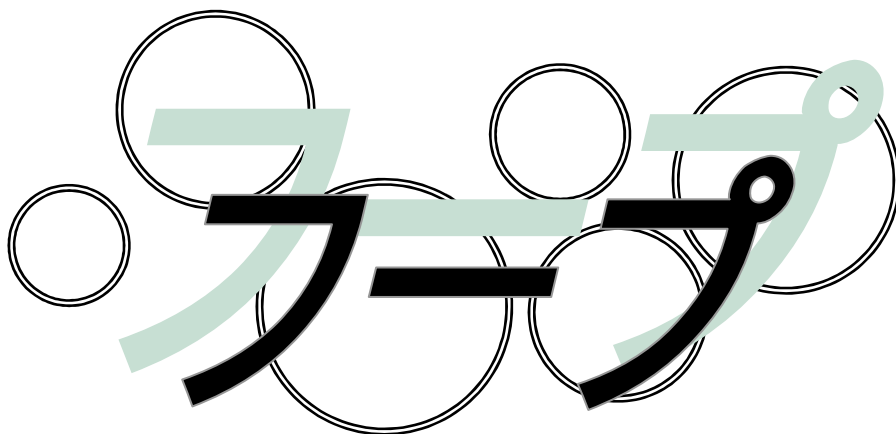




～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会  
2011 年 秋号  
第 68 号



ねむの木美術館（どんぐり）

目 次

---

|   |                      |       |        |
|---|----------------------|-------|--------|
| ■ | へっついさんで大和の食事を作ろう     | 宮崎眞友美 | 1 ページ  |
| ■ | 「静岡・箱根近代建築の旅」— 1 日目— | 篠田三起子 | 2 ページ  |
|   | 「静岡・箱根近代建築の旅」— 2 日目— | 江木博子  | 5 ページ  |
| ■ | 私と建築                 | 相河真弓  | 9 ページ  |
| ■ | 今後の事業予定              |       | 10 ページ |

**場 所**  
奈良県立大和民俗公園  
吉川邸ほか  
大和郡山市矢田町  
5 4 5

**日 時**  
平成23年  
11月13日(日)  
11時～

**雨天決行**  
準備は9時～  
参加費無料

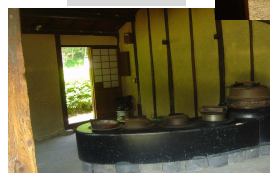
**目 的**  
◎参加者の交流促進  
◎パネル展示で情報  
(存在・役割)を発信  
◎『へっついさん』の  
体験研究

◇メニュー◇  
山椒のご飯(新撰)  
茶がゆ  
きのこ入りかやくご飯  
鯖の味噌煮  
まなのお浸し  
奈良のつべ  
柿なます  
串の物  
キコウりの漬物  
奈良漬  
梅干し  
あかし芋  
柿などの果物

女性委員会  
20周年記念  
イベント



《イベント会場》



『へっついさん』  
で大和の食事を  
作ろう

**内 容**  
『へっついさん』で  
大和の食事を作る。  
(かまどを使って昔の  
台所を体験する)

《会場のへっついさん》

《表紙のフープ(輪)を模しました》

イベント開催の  
お知らせ

※参加、不参加の変更は、

## 女性委員会20周年記念イベント

### 『へっついさん』で大和の食事を作ろう

～事業進行状況報告～

平成3年3月に初代女性委員会西尾委員長を中心に女性建築士32名で発足した女性委員会の活動は今年で20年を超えるものとなりました。

社会の変化に柔軟に適応し、この20年間で力を尽くされました諸先輩方に対して、心から敬意と感謝を申し上げます。

また、このような節目の年に巡り合わせ、記念事業に参加できますことに、大変喜びを感じています。

さて、

イベント事業の進行状況を報告致します。

■ 2月初めごろ、民博にて、民家・へっついさん使用についての打診、会場視察調査。

■ 6月21日 第1回全体会議

■ 6月29日 民博にて、民家使用にあたっての注意、打合せ及び会場視察。

■ 8月9日 第1回班長会議兼会場下見会

■ 10月4日 第2回班長・係長会議

事務局までご連絡下さい

■ 10月18日 調達班および調理班会議  
いよいよ残すところ1か月を切りました。

10/4の会議ではすべての歴代委員長様(現会員)にもご出席いただき、遅くまで白熱した議論となりました。(メインテーマはメニューを決定すること)また、参加者が女性委員会の理解を深めるための写真パネルの作成は11月から本格スタートします。では、

最後になりましたが、今日までの20年間の歩みを振り返りながら、多数のご参加により記念事業を挙行したいと存じますので是非ご参加賜りますようご案内申し上げます。(イベント開催のお知らせ:上記)

宮崎 眞友美



《第2回班長・係長会議》



《6月29日民博での打合せ》

## 「静岡・箱根近代建築の旅」

1 日目

篠田 三起子

平成 23 年 6 月 3 日（金）から 1 泊 2 日の愛知県、静岡県、神奈川県の近代建築をまわる 1 泊 2 日のバスツアーに参加させていただきました。

まずは 3 時間かけて昨年オープンしたばかりの豊田市の逢妻交流館。こちらはプリツカー賞を受賞したばかりの妹島和世氏の設計、独特の浮遊感のあるアールの建物はやはり独創的。施工の方々は苦勞されただろうなあナンテ・・・。

生涯学習センターで地域の人がだれでも利用できる図書館や多目的ホール等があります。自分の町にこんな建物があると楽しいなあ。

つづいて、近くにある豊田市井上公園水泳場に。



何ともかわいい卵型の建物は公共のプールです。ラチスシェルの屋根に柱や壁がないので、プールとしては監視員に死角がでらず、安全ですね。



こちらはそれだけじゃなくて、環境にやさしい試みが他にもたくさんありました。

1. アプローチです、最大 10KW の太陽電池の底です。エコなだけでなく透過具合がちょうどいい具合で意匠的にも魅力的です。



2. 機械置き場の目隠しですが、愛知万博の時に使用されていた木材をリユースされたそうです。



3. 設備が大きすぎてわかりづらいですが、こちらは巨大なヒートポンプです。この施設はオール電化で、CO2 34%削減、蓄熱省エネルギー22%の設計だそうです。



4. 建物の地下にあるプールの水を浄化させる機械室も見学させていただきました。こちらは最近注目されているようですが、MIOX=マイオックス（混合酸化剤再生方式）という塩と水が原料の殺菌システムのことだそうです。

これは、身体に安全で目や肌にもやさしい水になるそうです。（水が怖い子供が減りそうですね！）災害時にはプールの水に特殊なフィルターを通せば飲料水にもなるし、維持管理のコスト削減効果にも大変すぐれているというウルトラシステムのようです。



「愛・地球博」のその後・・・、エコの取り組みに先進的な愛知県豊田市はスゴイ！！と感じ次は静岡へ。

車中お弁当をいただき、東名で掛川ICでおり、掛川郊外の山里にある「ねむの木学園」を訪問。長閑な山道に自生している木々の名前などを当てながら坂道をしばしハイキング。坂茂氏設計の「ねむの木こども美術館（ねむの木緑の中）」から見学



カラフルであり、緻密あり、とても自由な発想のねむの木の子供たちの作品に出会えたことに感謝と感激。

そして私の中では最大の楽しみであった藤森照信氏設計の「ねむの木こども美術館（どんぐり）」へ。周りを山の斜面で囲まれ、景色に溶け込むかのように建っていました。どんぐりのへたをかぶしたような形に銅板を曲げた屋根と草棟を葺いた切妻屋根はとてもやさしく、だけど甘くなくココロがほっこり。ねむの子供達が描いたといわれる白い外壁にかわいい麦の絵ともバランスが良く、建物の無機的な部分は一切みえてこなくて、仕掛けいっぱい、遊び心盛りだくさんの自然の神様が宿る美術館でした。



そして、藤森建築の余韻をひきづりつつ、少し疲れもみせつつ、ねむの木の敷地内にある「吉行淳之介文学館」を訪ね、茶室建築の中村昌生氏設計の建物を見学。



名栗かな？大きな濡れ縁（デッキ）はまねしてみようとチェック。



1日の中で、エッジのきいた建物から、最新設備設計、大地に根ざした建物、数奇屋建築と駆け足でめぐり終了。

宿泊先の三島東横インに到着

夕食会は晩餐会？はじめて参加の私ですが、皆さんの疲れ知らずのパワフルな様子に圧倒されつつも、盛りだくさんメニューとアルコールをいただき、「よくばり弾丸トラベラー」の1日目の夜はふけていきました。

節電中のエレベーター



6月4日、見学会2日目、今日は晴天。富士山がすっきり望めるとの期待を胸にバスで三島を8時に出発しました。

### ① ポーラ美術館（神奈川県足柄下郡箱根町）

芦ノ湖を眼下に富士山を右に左に探しながら山腹をめぐり、仙石原のススキ群落をすぎると、林道のなかに美術館のサインとブリッジが現れました。美術館全体は見えません。サインの周りが少し、まばらな林になっています。

ブナやヒメシャラをはじめとする落葉樹の林の中のブリッジを渡ると、強化合わせガラス張りのエントランスホール（建物本体の2F）。そのガラスを通して、小塚山の新緑がうつしく、地下2階まで吹抜けたアトリウムロビーが見渡せ、美術館全体の構成が把握できるようになっていました。

各々館内自由鑑賞の後は、地下1階の講堂で学芸員さんに、ポーラ美術館の概略を伺いました。

・2002年の開館まで約10年の年月をかけて、『箱根の自然と美術の共生』をテーマに建設された。国立公園内に位置し地上高を8m以下におさえアプローチから地下に美術館を建設した。（設計：日建設計）  
（↓写真：ペディストリアンデッキの向こうに、エントランスがある。でも、箱は見えない。）

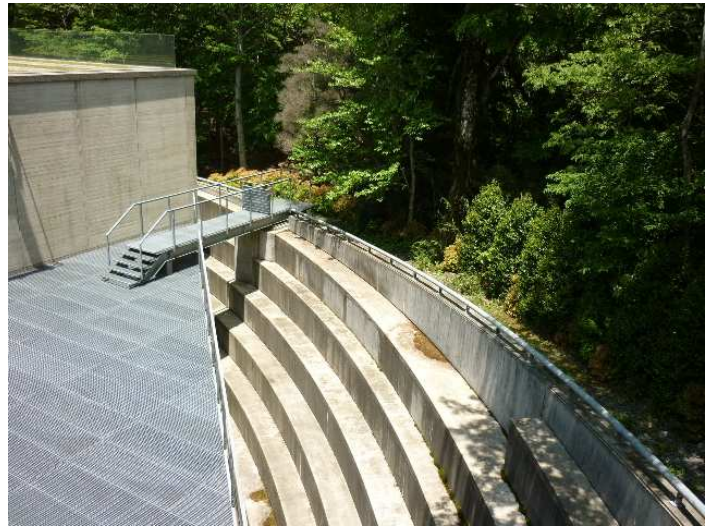


・周辺はブナとヒメシャラが多数生育しており、環境調査に基づき敷地から半径100mの範囲は、直径20cm以上の樹木は保存（約1500本）。それ以外は伐

採移植したり、種を集め苗木を育てて植栽した。

（開館後に、周囲12.69haはトラスト緑地として県の財団に寄贈されている： 補 江木）

・小塚山の斜面に半径約60mの穴を穿ち階段状のすり鉢のような円形RC擁壁とし、完全免震構造により建築物本体をこの壕から浮かせることにより、人と美術品を地震や高湿度から守っている。



免震構造であることにより、震度5,6位なら震度3位の衝撃にまで緩和されるということだったが、今年の3月11日は、開館以来初めて免震機構が作動して今までに聞いたことも無い様な音と揺れを経験した。幸い損傷はなかった。

また、火山性ガスの影響は館内で常に監視している。（温泉地ならではの条件！）

・標高760mに位置し、新聞も配達されないほど鄙びた場所にある。年中開館しているので、12～2月は雪深く通勤もかなり困難であり、美術館としてはかなり厳しい環境にある。

・収蔵品はポーラの2代目社長が40年に亘って収集したコレクションである。その中核は、19世紀フランス印象派やエコール・ド・パリなどの西洋絵画400点にあり、各画家のスタイルの変遷の節目を確実に収集してあることにあり、片寄りが少ない。

・照明について、吹き抜け部分はガラスのトップライトからの自然光。展示室内は光ファイバー照明（熱源と発光部を離せるので美術品にダメージを与えない。）

また、印象派の絵画を美しく見せるのは、「7月のパリの夕暮れ」の光ということで調光しているが、

他の美術館に比べて暗いと言われる。その他の照明は、蛍光灯を天井にあてた間接照明。ちなみに、展示室のガラスは透明度が高いとされるドイツのグラスバウハーン社製だそうで、美術品を展示し保存することをよく考えておられるなあと思いました。

その後1階のレストランで、フレンチをいただきました。暖かい焼きたての鯛（たぶん）のポワレ、彩も鮮やかなサラダ、柚子のソルベ、スイーツなどたっぷり堪能致しました。明るく自然豊かな環境のなかでリゾート気分おいしい食事を堪能いたしました。



食後は定時まで、オープンエアのテラスなど各自自由見学。展示室や収蔵室は、自然光の入らない地下部分にあるので、カフェテラスやショップといった空間ではガラスを通して屋外の林の木々が目に飛び込んできます。今からなら、紅葉が堪能できるのですが、この日は晴天だったこともあり、新緑が白を基調とした館内に溶け込んできて、梅雨であることを忘れさせるさわやかな空間でした。

自然との共生というより、建物周辺が保全されることにより守られた森に埋め込まれ、環境に包まれた幸せな美術館だと思いました。樹木が生長した分竣工当時より今のほうが自然と共生一すっぽり包まれるイメージがあるのではないのでしょうか。



バスの駐車場に、地元の個人タクシーが止まっていました。箱根で5台しかない電気自動車のタクシーだそうです。（排ガスがクリーンなので植物もうれしい！）

車いす利用者のアクセスも確保してありましたが、強いて言えばメインからもっと素直にアクセスできるとより良いかなと思いました。

## ② 東山旧岸邸ととらや工房（静岡県御殿場市東山）

《御殿場東山ミュージアムパーク（仮称）》内の施設を2つ見学しました。

まるで民話のスズメのお宿の世界にいるような森と山門をくぐり、緩やかなカーブを描く山道をいくと東山旧岸邸がありました。



### a. 東山旧岸邸

御殿場市に、寄贈された元首相岸信介の旧別邸で、吉田五十八の設計による近代数寄屋建築としてあまりにも有名な建物です。

すっきりと端正な木造建築で、涼しい風が心地よく和室のほうから流れてきます。冷房はありませんが、風のみちをも計算されたプランにため息です。涼しい風がある環境-それを活かし取り入れられる建物・・・理想ですね！



ここの書斎や居間、和室で様々な政治のドラマがあったのではないかと思います、なんだかワクワクしました。美しい収まり詳細に皆さんここぞとばかりにシャッター音がしました。屋外はどこまでが敷地なのかよくわかりませんが、建物を囲む広い庭が、面する居室に応じて前庭、中庭（坪庭）、主庭、和風庭園とに分かれています。主庭の向こうは東山の森と連続し、かつて森の中からの突然の訪問者もあったのではないかと、私の妄想たくましくしてくれる空間構成となっていました。この庭が建物の静寂さと気品を際立たせているように思えました。

併設された、売店では、旧岸邸の図面入りのとらやの羊羹が販売されていました。（たぶん限定品。当然 get しました。）



（↑写真:岸邸前庭内の島の植栽 色々なギボシ）

旧岸邸をでると、緩やかな園路でとらや工房のエリアとつながれており一体のものとして整備されている。御殿場東山ミュージアムパーク（仮称）というように、旧岸邸やとらや工房の他にも、いくつか施設（箱モノー失礼！しました。）の計画があるようです。とりあえず、現在は2つの施設で運営をしているようです。緑が一杯の山を整備して園路を回して施設を配置し、休憩所やお土産物も準備し、積極的に観光ポイントとしようという気配を感じました。

#### b. とらや工房

2007年10月開業 S+木造 地上1階。

設計：内藤廣建築設計事務所。とらやの羊羹で有

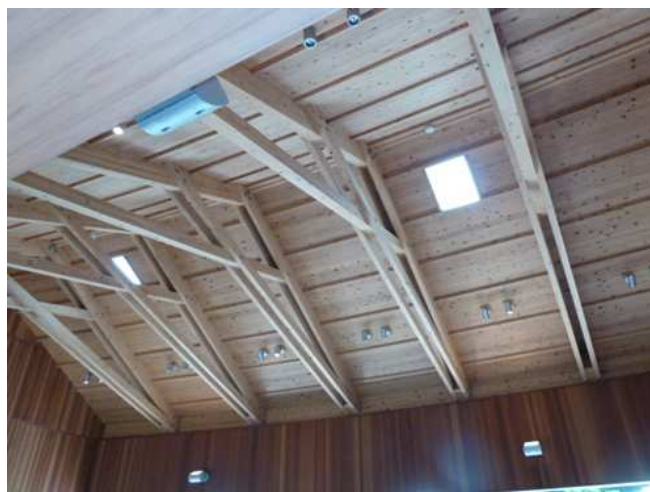
名なとらやによる和菓子茶店。



旧岸邸からそぞろ歩いていくと、建物は池を囲むように緩やかなカーブを描いて建てられている。園路を歩いていくと、ガラス越しに和菓子作り見学をし、お菓子を買ひ（お茶がついてきます。）、気が付いたらオープンデッキの客席にすわり、ゆっくりと食べているのです。ヤラレタ！園路というよりは建物の軒先ですかね、木製ルーバー+透明アクリル板が建物と連続して架けられているので、雨も日差しも避けられ休憩しようという気分になります。

屋内は壁床共に板張り、園路は木製ルーバーと何とも和む空間でした。こんなに、やさしく木を使った施設は最近経験ないかも。（タコツボ生活だから）

いや、もっと触れるべきツボがあったのでしょうか、とにかく森に溶け込んだ施設、天然クーラー、巧みな平面計画がうれしかったです。屋外には緑豊かな林を后背地とし、敷地の高低差を利用したであろう流れと池がありました。



とらやを出発し、予定外のおさかなセンターに、立ち寄りしました。トロ1貫だけ食べるひと、お土産を買う人等、各々ひたすら楽しみに走りました。その後は、バス内で映画を見たり眠ったりと、奈良を目指しました。少し、高速道路が混んでいたこともあり、奈良に着いたときは真っ暗でした。幹事さんお疲れさまでした。楽しい研修をありがとうございました。

(おまけ)今回の見学会中ご質問のありました、樹木に関することをまとめました。

#### 木の名前-1



ポーラ美術館の周辺で白い花の咲いていた木は、ガマズミです。残念ですがヤマボウシではありません。ヤマボウシは一つ一つの花が大きく、独立している感じになります。この花は、小さい花が集まって1つの大きな花をかたちづけているので違うのです。また、ヤマボウシは1つの花の形もイメージとして、スリムなハナミズキか4枚羽の手裏剣のような感じです。

#### 花の謎①

ヒメシャラとシャラ(別名ナツツバキ)は、どちらもツバキ科。ツバキに似た5弁の白い花が6~7月頃咲き、花の大きさがφ2cm位がヒメシャラ、φ5~7cmがシャラとなります。葉もヒメシャラが少し小さいです。幹肌は、シャラのほうが少し濃いトーンです。また、樹高もシャラのほうが大きくなります。イメージとして、シャラの小さいのがヒメシャラとなります。

正直、花の咲いていない幹肌の赤っぽいシャラのような木を見て、さあ、姫や否やと問われると、私には答えられませ

ん。夏に行けば花がみれますよ。



#### 花の謎②

ねむのき学園のねむの木村内を、移動中にものすごくとげとげのバラの花のような苗がうえられていました。

写真を撮り忘れてしまったのですが、どうもサンショウバラ(バラ科落葉小高木)のようです。なにしろ、葉が山椒に似てるし、ものすごいトゲでしたから。また、別名ハコネサンショウバラ、ハコネバラともいい、日本原産だそうです。ちなみに、箱根町の花なんだとか。

#### 木の名前-2

下の写真の木はハウチハカエデです。ポーラ美術館のペDESTリアンデッキの近くにありました。

このほかにも、様々なモミジが植えられてましたから、そろそろ紅葉し始めているんじゃないでしょうか？



このページを書きながら、私は、自分がものすごく何にも知らない、勉強不足なのだなと思い知らされました。見学会の時、言っていたことの中には赤面もののことが満載です。

## 私と建築

相河 真弓

早いもので、設計のお仕事に就かせて頂いてから20年が過ぎました。ここまでの道は決して順風満帆とは言えませんが、なんとか細く長く続けさせて頂いています。

私が「建築」を（将来の仕事として）意識し始めたのは高校生の頃です。

私の母はその能力云々の前に、女性であるということだけで、子供を持っているということだけで、世の中で職業を見つけることに苦労していました。母はなんの資格も持っていませんでした。そんな母を横で見えてきたから、自分は同じ苦労はしたくない、と漠然と思っていました。

ですから「国家資格」の取れる学校に行こう、と進路を探し、出会ったのが「建築」です。

「建築」の魅力は何と言っても「無」から「有」を作り出すこと、だと思います。

新しく創り出された「空間」は人々の心身に様々な影響を与えます。「建築」は人々の五感に訴えることで、居心地のいいシェルターにもなれば、健康や安全を脅かすこともあります。私たち設計者が描く1本の線、選択する材料、色によって、それらは決まるのです。その責任の重さに時に押しつぶされそうになりながら、なんとか日々図面を仕上げています。でもだからこそ、設計した「建築」ができ上がった時に、嬉しそうな顔をされている施主さんの顔を見る瞬間はなによりホッとします。これからこの「建築」をよろしく願います、の思いと共に。

もう一つの魅力にはその「奥深さ」もあげられるのではないのでしょうか。企業に就職したての頃は、何もかもわからない事だらけで、でも一人で物件を任せ、打合せに行っても、専門用語がわからない！言われていることが半分もわからない！とにかく全

部文字にして会社に持ち帰り、先輩に聞きながら、調べながら、なんとか日々仕事と格闘していました。でもきっと、経験を重ねれば、10年ぐらい経てば、「建築」がわかる様になるんだろう、程度の認識でした。ですが、20年経ってわかったのは、「建築」はすぐに理解できるほど簡単なものでなく、「奥深い」ということです。

今も、私が「建築」のお仕事を続けさせて頂いているのはそのような「建築」に魅かれて、ということも大きな理由ですが、女性である私が「建築」に携わることには意味があると思っているからです。いつも建築士の講習会に参加する度に男性の多さ、女性の少なさに複雑な気持ちになります。世の中には男性と女性が同じぐらい生活しています。ですが、建築士に限らず、まだまだ女性の割合がどの分野にも少ないのが現状だと思います。「建築」を使うのは男性だけではありません。女性も子供も使います。様々な立場の人々が使用するのだから、様々な人間が作り手側にいることが本来の自然な姿ではないでしょうか。

振り返ると、大学卒業後、就職～結婚～長女出産～育児休暇～資格取得～復帰～長男出産～育児休暇～退社～アルバイト～独立・・・、と決していつも100%「建築」に向かうことができていたわけではありません。企業を退職し赤ん坊を抱えて預け先がなかった時、奈良で独立した時、子供が急に熱を出した時、思い返せばいつも誰かが手を差し伸べてくれました。また、大阪出身の私が奈良で新しいお仕事に出会う時、そこには必ず、出会わせて下さる人がいました。その様な多くの方々に助けて頂いたから今があります。そして、「建築」があつたからこそ、多くの方々と出会うことができました。きっと、これからもまた、新しい出会いが待っている事を楽しみに、細く長く、続けることができれば嬉しいです。

今、私にとって「建築」は社会とそして色々な人々と繋がるための「大切なもの」です。

## 今後の事業予定

平成 23 年

- ☐ 12 月 1 日 (木)  
二級・木造建築士試験合格発表
- ☐ 12 月 3 日 (土)  
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- ☐ 12 月 15 (木)  
一級建築士試験合格発表
- ☐ 12 月 17 日 (土)  
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会

平成 24 年

- 1 月 13 日 (金)  
新年名刺交換会
- 1 月 14 日 (土)  
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- ☐ 1 月 18 日 (水)  
・奈良県被災建築物応急危険度判定士  
養成講習会  
・正副会長会
- ☐ 1 月 25 日 (水)  
・奈良県被災建築物応急危険度判定士  
養成講習会  
・なら・すまいアップセンター住宅無料相談室
- ☐ 1 月 28 日 (土)  
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- ☐ 2 月 17 日 (金) 18 (土)  
全国女性建築士連絡協議会“京都大会”
- ☐ 2 月 11 日 (土)  
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- ☐ 2 月 24 日 (金)  
第 4 回一級・二級・木造建築士定期講習  
(奈良県産業会館)
- ☐ 2 月 25 日 (土)  
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- ☐ 3 月 6 日 (火)  
正副会長会
- ☐ 3 月中旬

女性委員会見学会

- ☐ 3 月 16 日 (金)  
理事会
- ☐ 3 月 21 日 (水)  
既存木造住宅耐震診断講習会
- ☐ 3 月 28 日 (水)  
なら・すまいアップセンター住宅無料相談室

### \*訂正とお詫び

先号でご案内させていただきました、新シリーズ「私と建築」のご案内文の中で“建築士名簿 50 音”とあるのは“建築士名簿 50 音順”の誤りです。ここに訂正しお詫びさせていただきます。又より多くの女性建築士である皆様からの近況や思いをお伝えできたらと思っております。大変ご多忙とは存じますが、どうぞご協力をお願い致します。

### ～編集後記～

11 月 13 日へっついさんイベントに向けて女性委員で着々と準備中です。子供の頃調理はガスでしたが、私の実家にもへっついさんがありました。秋祭りの日、母が早朝から赤飯を作っていました。又 6 才の時帰宅が遅いとへっついさんのある土間で叱られ立たされました。へっついさんのあった風景は幼少期の思い出と重なります。今号もご多忙の中、ご寄稿いただいた皆様ありがとうございます。皆様今後共フープをよろしくお願い致します。(前田 晴子)